

キャンパス TODAY

椿教授(手前左から3人目)と研究室のメンバー|| 富山大五福キャンパス



おじゃましま〜す

研究・ゼミ室

■ 富山大工学部 環境応用化学科 触媒・エネルギー材料工学 椿研究室 椿範立教授

原油の高騰が止まらない。ガソリン、軽油、灯油、プラスチック、繊維、食品…と原油に関連するものは多く、値上げは家計を圧迫している。問題は高騰だけではない。石油

原油の高騰が止まらない。ガソリン、軽油、灯油、プラスチック、繊維、食品…と原油に関連するものは多く、値上げは家計を圧迫している。問題は高騰だけではない。石油

新エネルギー技術を開発

油枯渇という深刻な事態が近付いている。

椿研究室では、椿範立教授を中心に、石油に替

わる次世代のエネルギー技術を開発している。天然ガス、バイオマス、燃料電池などによるエネル

を求めている」と話す。

ギアの安定供給と、環境保全との両立を目指してゼミ生は約三十人。学生は皆、使命感を持って取り組んでいる」と椿教授は言う。学部四年から研究には世界中から注

次世代のエネルギーとして、椿教授が特に注目をしているのは、バイオマス。イネのワラ、間伐後の木材、生ごみといった「ただのごみ」に過ぎなかったものがエネルギー源となる。「炭酸ガスも出ないからクリーン」と

椿教授は説明する。

修士課程二年の学生が中心、博士課程や、中国、タイバンクラデシユからの留学生もいる。

目が集まっている。現在、国内外の化学、石油、ガス、鉄鋼、自動車などの企業十数社と、共同研究や技術提供を行っている。学生の論文は英語で書くことがルール。椿教授は「世界に通用する質

巨大な実験装置がたくさん並ぶ実験室は、工場そのもの。学生が黙々と機器と向き合う。椿教授は「研究には情熱だけでなく、体力も必要。教員と学生共に団結して、いい成果を出していきたい」と力を込めた。